

エチオピア

2020年11月27日

海外調査部・アディスアベバ事務所

■経済構造改革や国内融和への道のり長く

中央銀行によれば、2018/19年度（2018年7月8日～翌年7月7日）の実質GDP成長率は、前年度の7.7%を上回る9.0%となった。このうち、サービス産業が4.1ポイント、工業が3.6ポイントを占めて、成長を牽引した。しかし、中央銀行の年報には統計上の不整合が散見されることから、成長率の高い要因についてこれを正確に裏付けることは難しい。

マクロ経済上では、国際収支の不均衡と対外債務が懸念されている。政府は巨額の貿易赤字の改善に向けて、輸出契約の事前確認により国内仕入れ価格を下回る価格での契約は否認するなど、輸出管理を厳格化した。輸出額の増加には結びついていない。歳入の伸び悩みや外貨準備の改善、債務管理といった諸課題に対しては、歳入庁の省への格上げを含む組織改編や、投資家への税の減免措置を含む税制の見直しなどに着手する一方、国際機関や二国間ドナーに支援を仰ぎ、経済構造改革を進めている。改革には時間がかかるとみられる中、IMFは、債務持続性分析（2020年4月発表）で、引き続きエチオピアを高リスクと認定している。2019年12月の与党連合再編では、旧主流派のティグライ人民解放戦線が新たに発足した繁栄党への参加を見送るなど、国内融和もまた経済構造改革と同様に時間がかかるとみられる。

■輸入では、燃料の比率が続伸

2018/19年度の貿易は、輸出（電力輸出含む）が26億6,650万ドル（前年度比6.0%減）、輸入が151億1,200万ドル（0.9%減）であった。

輸出では、最大品目のコーヒー豆（構成比28.7%）が数量（3.2%減）、単価（5.9%減）ともに振るわず、金額で前年比8.9%減となった。ゴマが中心の油糧種子（構成比14.5%、8.4%減）は取引価格の高騰が数量減を招いたとみられる。

国別では、ソマリアが最大の輸出先（構成比9.7%）で、チャット（覚醒作用のあるかみたばこ）が約8割を占める。2位のオランダ（7.9%）向けは、バラなどの花きが約8割を占める。エチオピアは、アフリカではケニアに次ぐ園芸作物輸出国だが、オランダは2017年第2四半期をピークにエチオピアからの切り花輸入を減らしている。米国（7.2%）はコーヒー豆に落ち込みがみられた。

表1 エチオピアの需要項目別実質GDP成長率

(単位: %)

	2016/17年度	2017/18年度	2018/19年度
実質GDP成長率	10.1	7.7	9.0
民間最終消費支出	9.3	5.4	13.1
政府最終消費支出	9.0	△1.2	△3.2
国内総固定資本形成	12.4	△4.9	11.4
財貨・サービスの輸出	6.7	17.5	2.2
財貨・サービスの輸入	△5.3	4.1	△1.3

〔注〕年度は7月8日～翌7月7日。各需要項目は発表された名目値からGDPデフレーター（基準値2015/16年度）を利用して実質化した後に伸び率を算出したもの。

〔出所〕エチオピア中央銀行四半期報告(2019/20年度第2四半期)からジェトロ作成

輸入は資本財（構成比33.3%、4.5%減）と消費財（28.3%、9.2%減）が前年から続落する一方、燃料（17.2%、12.1%増）は増加が続いた。近年、国内の石油製品需要は年10%程度で増加する中、国際取引価格の上昇で輸入額が大きく伸びた。

国別にみると、中国が引き続き最大の輸入相手国（構成比25.9%）であり、金額では一般機械や電気機械などが大きい。品目は、土木建設用途のダンプカーや瀝青、鉄鋼製の構造物などの他、プラスチック製品原料となるポリエチレン、テレビといった消費財まで幅広い。輸入相手国2位のクウェート（11.0%）は二国間協定に基づく石油製品購入が、同3位の米国（9.1%）は、航空機・同部品（エンジンなど）が中心である。

表2 エチオピアの主要品目別輸出入（通関ベース）

（単位：100万ドル、%）

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2017/18年度	2018/19年度				2017/18年度	2018/19年度		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
コーヒー豆	839.0	764.1	28.7	△8.9	原材料	138.0	151.5	1.0	9.8
油糧種子	423.5	387.8	14.5	△8.4	半完成品	2,527.8	2,778.8	18.4	9.9
豆類	269.5	272.3	10.2	1.0	肥料	478.5	499.7	3.3	4.4
チャット	263.2	303.6	11.4	15.3	燃料	2,319.3	2,600.7	17.2	12.1
花き	228.6	256.6	9.6	12.2	石油製品	2,227.2	2,493.4	16.5	12.0
皮革・その製品	132.4	117.4	4.4	△11.3	資本財	5,269.1	5,030.6	33.3	△4.5
肉・肉製品	101.7	88.6	3.3	△12.9	輸送資本財	1,130.9	1,429.2	9.5	26.4
金	100.2	27.9	1.0	△72.2	農業資本財	51.5	58.6	0.4	13.8
電力	80.5	55.7	2.1	△30.8	工業資本財	4,086.7	3,542.9	23.4	△13.3
果実・野菜	61.4	60.9	2.3	△0.8	消費財	4,707.0	4,273.1	28.3	△9.2
生きた動物	61.1	45.8	1.7	△25.0	耐久消費財	1,351.7	1,200.7	7.9	△11.2
その他	275.0	285.7	10.7	3.9	非耐久消費財	3,355.3	3,072.3	20.3	△8.4
合計（その他含む）	2,836.1	2,666.5	100.0	△6.0	合計（その他含む）	15,255.3	15,112.0	100.0	△0.9

〔出所〕 エチオピア中央銀行

■直接投資流入の減少傾向が鮮明に

エチオピア中央銀行によれば、2018/19年度の外国からの投資件数（申請ベース、現地法人のみ、稼働状況にあるもの）は63件となり、前年度の54件から増加した。一方で、投下資本は減少に転じて11億1,530万ブル（78.5%減）となった。投資額は、国連貿易開発会議（UNCTAD）も2019年の対内直接投資額（ネット、フロー）を25億1,600万ドル（前年比24.0%減）と報告しており、減少傾向が鮮明になっている。

既存の工業団地は、引き続き企業の集積や追加投資の核となっているとみられ、2019年には、繊維・縫製分野の拠点であるハワッサ工業団地に、世界的な認証サービス機関の一つであるSGS（スイス）が品質試験所を設けると明らかにした。東方工業団地に立地するユニリーバ（英国・オランダ）は2015年の進出以後、石鹸・洗剤、固形スープの素などを生産してきたが、2019年3月には新たに歯磨き粉の生産ラインを立ち上げた。ボレレミ工業団地では、スフレ（仏）がモルト加工場の建設を始めており、2020年の稼働を目指している。工業団地の外では、世界的な大手の動きが目立った。コカ・コーラ（米国）が、国内5工場体制とすべくオロミア州と南部諸民族州でボトリング工場を建設した。経済自由化の進展で物流部門に外資が出資49%まで参加できるようになったことを受けて、物流大手CMA CGM（仏）とボロレ（同）は、それぞれが旧知の代理店に出資した。同部門では、2018年にも

DHL (独) がエチオピア航空と合弁会社を設立している。

UNCTADによると、近年エチオピアに活発に投資してきた中国が依然として新規承認案件の6割を占めるとされるが、その勢いは落ち着きつつあるとみられる。代わって現政権の改革・開放路線を好感した欧米諸国の企業がエチオピアへの関心を高めているが、新規企業の投資はまだ少なく、既に足がかりを持つ企業が再編・拡張する事例にとどまっている。

■日本の輸出入は大幅増、2年連続の入超

日本の対エチオピア貿易（通関ベース）は、輸出が前年比80.2%増の8,499万ドル、輸入は30.6%増の1億3,757万ドルで、貿易収支は2年連続で日本の入超となった。輸出は大きく増えたが、前年の大幅な減少からの回復途上で、2017年の水準には届いていない。

輸出は、一般機械や鉄鋼製品の回復が鈍く、自動車全体に占める割合が高まった。品目別では、貨物自動車（ディーゼル、5トン以下）が大きく伸び、20トン以下の貨物自動車と合わせて全体の約3割を占めた。モーターサイクル（排気量50cc超、250cc以下）は前年の6.2倍になったが、台数は3,336台で2017年の水準（3,702台）には届かなかった。鉄・非合金鋼フラットロール（幅600mm以上）やショベルカーなども前年から増加しているが、やはり2017年の水準には届いていない。

輸入ではコーヒー豆（非焙煎）が前年比20.8%伸びた。エチオピアは2019年の日本のコーヒー豆の輸入額全体の8.6%を占め、調達先4位である。輸入品目2位のゴマ（構成比16.8%、前年比88.7%増）は前年に続き大きく伸びた。日本の2019年のゴマ輸入は18万6,000トンで、エチオピアはこのうち、7.2%を占め、調達先としては世界4位である。近年、増加基調にある園芸作物では、大型小売店に卸す花束の形での切り花（生鮮、ブーケ用）の輸入が初めてバラ（生鮮）単体での輸入を上回った。

進出日系企業数は12社で前年から増えていない。

表3 日本の対エチオピア主要品目別輸出入（通関ベース）

（単位：1,000ドル、%）

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2018年		2019年			2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
貨物自動車（ディーゼル、5トン以下）	499	15,916	18.7	3,090.0	コーヒー豆（非焙煎）	81,226	98,145	71.3	20.8
貨物自動車（ディーゼル、5トン超20トン以下）	9,075	8,945	10.5	△1.4	ゴマ	12,255	23,125	16.8	88.7
モーターサイクル（50cc超250cc以下）	1,225	7,620	9.0	521.9	切り花（生鮮、ブーケ用）	2,075	4,846	3.5	133.5
バス（ディーゼル）	4,328	6,057	7.1	39.9	植物の葉・枝	2,305	3,827	2.8	66.0
乗用車（ディーゼル、2500cc超）	9,880	4,964	5.8	△49.8	バラ（生鮮）	2,743	2,905	2.1	5.9
鉄・非合金鋼フラットロール（幅600mm以上）	2,527	4,278	5.0	69.3	コーヒー豆（非焙煎、カフェインを抜いたもの）	940	918	0.7	△2.3
ショベルカー	886	2,830	3.3	219.5	植物の挿し穂・接ぎ穂	796	741	0.5	△6.9
オフセット印刷機器	0	2,707	3.2	皆増	革製用品（ケース）	182	618	0.5	239.6
製織機械（織幅30cm超）	0	1,949	2.3	皆増	コーヒー豆（焙煎）	1,590	590	0.4	△62.9
ゴム製タイヤ（乗用車向け）	613	1,859	2.2	203.5	蜜ろう	420	569	0.4	35.3
合計（その他含む）	47,167	84,989	100.0	80.2	合計（その他含む）	105,323	137,568	100.0	30.6

〔注〕 革製用品（ケース）はHS420291とHS420292の合計。

〔出所〕 財務省貿易統計

主要経済指標

	2016/17年度	2017/18年度	2018/19年度
①人口：9,760万人(2018/19年度)			
②面積：114万km ²			
③1人当たりGDP：858米ドル (2019年)			
④実質GDP成長率 (%)	10.1	7.7	9.0
⑤消費者物価上昇率 (%)	7.4	14.6	12.6
⑥失業率 (%)	n.a.	19.1	n.a.
⑦貿易収支 (100万米ドル)	△12,895	△12,419	△12,445
⑧経常収支 (100万米ドル)	△6,543	△5,285	△4,534
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	3,035	3,977	2,981
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	23,337	25,773	27,093
⑪為替レート (1米ドルにつき、 エチオピアブル、期中平均)	23.9	27.4	29.1

〔注〕 年度はエチオピア財政年度 (7月8日～翌年7月7日)。①：年度中央値、⑥：都市失業率で、2016/17年度は調査未実施、2018/19年度は調査実施有無を含めて不明、⑦：サービスを除く財のみ
 〔出所〕 ①②④⑦⑧⑩：エチオピア中央銀行2018/19年報、③：世界銀行、⑤：エチオピア中央銀行2019/20年度四半期報告 (第2四半期)、⑥：中央統計庁、⑨⑪：IMF

(お問い合わせ先)

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp